

水田祥代氏は九州大学大学院医学研究科小児外科学講座の教授として、小児外科の臨床・研究において多くの小児外科医師の指導に当たり、日本の小児外科学の発展に寄与してきた。特に小児の輸液・代謝・栄養および新生児の外科的疾患の臨床・研究は高く評価されている。さらに、日本における小児外科栄養輸液の黎明期を築き、脂肪乳剤や微量元素の重要性に関して多くの業績を残している。

センターダイピールズを用いた新規治療法の開発に貢献した。その他、国内での活動では、日本小児外科学会、日本小児がん学会など多数の学会において理事長を務め、会長として多くの学会の学術集会を開催している。同様に国際的な活動も多く、2000年には会長として第15回アジア小児外科学会を主催した。

2004年4月に、九州大病院の病院長に就任後は、類い稀なる統率力、指導力で法人化後の困難な病院経営の舵取りをし、ハートセンター、ブレインセンター、小児医療センター、救命救急センターやがんセンター

類い稀なる統率力・指導力により 世界の小児外科学をリードする 女性医師のバイオニア

してきた。中でも出生前診断された先天性横隔膜ヘルニアに対する胎児麻酔による安定化を導入し、救命率の向上に寄与したことは多大な功績である。

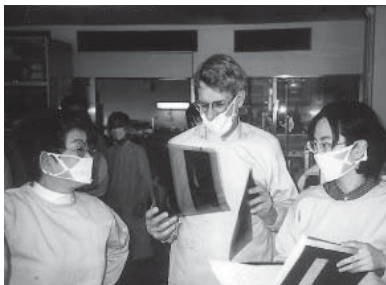
また、日本小児がん学会神経芽腫委員会の委員長として、乳児神経芽腫マスキニングの有効性に関する臨床研究で多くの成果を上げ、1992年の米国小児科学会外科部門 Stephen Gaus 賞を受賞した。

さらに、小児固形悪性腫瘍に対するトランスレーショナルリサーチを推進し、小児がんの予後に関与する遺伝子の検索や標準的治療の確立、

を設立。また、新臨床研修医療制度における九州大病院独自の育成方針の確立など運営管理の面で数多くの革新的な改革を進め、九州大病院を全国に誇れる病院として確立した。

現在は九州大学理事・副学長として(財務・国際関係、男女共同参画担当)2011年に開学100周年を迎える九州大学のさらなる発展のために努力している。

また、政府関係の委員会活動としては、厚生労働省関係では医道審議会委員を勤め、文部科学省関係では中央教育審議会委員としても活躍している。



■リバプール大学(英国)小児外科教授と医療について語る水田氏



■第37回日本小児外科学会総会



■手術風景



すいた さちよ
水田 祥代 国立大学法人九州大学 理事・副学長

1974年九州大学大学院を修了後、同大学の医学部教授、病院院長などを経て、2008年理事・副学長に就任。その他、多数の学会に所属。日本小児外科学会・日本小児がん学会・アジア小児外科学会などで理事長・会長・名誉会員などを務める。さらに、中央教育審議会委員(文部科学省)、医道審議会委員(厚生労働省)なども務める。業績・功績は共に高く、小児外科学における女性医師のバイオニアである。

推薦者 **澤口 聡子** 福岡女学院大学人間関係学部子ども発達学科教授 学科長